

岸井 隆幸 委員

< 共通 >

- 各競技会場の基本的な方向については了解したが、東京の都市づくりの観点や将来にわたって都民に喜ばれる施設整備のためには、会場周辺との繋がりや後利用も含めた全体像を踏まえて妥当性を評価することが重要である。
- そのためには、少なくとも以下の３点を明らかにする必要がある。
 - (１) 大会時及び大会後の利用者輸送計画
 - (２) 施設が立地する公園および隣接する公園の全体整備計画
 - (３) 大会後の施設の利活用計画および管理に関する基本的考え方次回までに整理の上、ご提示をいただきたい。
- また、各建築物の設計に当たっては、オリンピックレガシの一つとして、水際線の取り扱い、視点場の確認を含む周辺景観との調和、サインを含めた誘導システム、施設の環境配慮水準、バリアフリーへの対応水準などに共通した考え方（設計ガイドライン）を持つべきである。競技会場の設計に当たってどう想定するかを整理し、次回には可能な限り示していただきたい。
- 加えて、大会運営時に市民の参加を促し、大会後も当該施設を十分に利活用していただくためには、計画の段階からできるだけ情報を公開して多くの方に関心を持っていただくとともに、設計者には利用者と一緒に施設を創り上げてゆくという姿勢が必要である。今後の設計施工業者の選定に当たっては、こうした「設計プロセスへの市民参加の提案」も評価に含める工夫が必要である。
- なお、各施設の具体的な計画内容に関しては、現時点では、以下の点について早急に検討することが必要である。

< 海の森水上競技場 >

- (１) 海の森エリアの後利用の仕方と新たに設置する水上競技場施設との連携
立地条件を考えれば、両者の駐車場・サービス施設については一体的な利用を行うべきである。管理施設も一体であることが望ましい。
- (２) 水上競技場に設置される自転車用空間と海の森エリアとの連続性の確保
「水上競技場内だけの自転車走行空間」では利用が極めて限定される。海の森エリアの水際線部分との連携を図る全体像を描くべきである。
- (３) 水上競技場の大会後の日常的水面利用の検討
大会後の水面利用の方法が決まらなると陸上部分の将来計画を検討することができない。

<オリンピックアクアティクスセンター>

(1) 現国際水泳場・辰巳の森海浜公園など周辺部の再整備計画との調整

アクアティクスセンターを活かすためにも辰巳の森海浜公園など周辺部の再整備（特に水際部分）は必須である。逆に、現国際水泳場を含め周辺の将来計画と併せて今回の建物施設計画の妥当性を考えていくことが極めて重要である。

(2) 「東京にしかない魅力的な水辺空間」を活かす夢の島公園との一体整備

辰巳の森海浜公園と夢の島公園との間の水面（あけぼの運河など）は、スカイツリーを北に望み、中央部に空を飛ぶように電車が走る「東京にしかない魅力的な水辺景観」を導き得る貴重な領域である。

この水域の周囲をどのように仕上げるか、両公園の一体的設計整備が重要で、駅からの動線確保、視点場の設定（夢の島公園側にも必要）、水際線の回遊歩行者・自転車空間の確保、利用者サービス施設（休憩施設・舟運施設など）の導入などを同時に検討することが必要である。

<有明アリーナ>

(1) 西側の暫定施設（体操競技場等）との連携

ゆりかもめ・有明テニスの森駅方面からの動線確保、大会後の施設の利用方法、都心方面自動車動線（有明通り）からの景観などを考えると、有明通りを挟んで設置される暫定競技施設（体操競技など）と一体となった設計が必要である。

まず、早急に有明地区競技施設全体ベースマップ（統合図）作成し、両者の設計が常にその統合図の上で確認される仕組みを作る必要がある。

(2) 水際線の設計思想の確立および市民との共有化

有明地区の魅力である水面と建築物との関係が非常に重要である。水際線部分の空間確保の考え方、バリアフリー対応も含めた利用のルール、空間仕上げる仕方など早急に設計思想を取りまとめて、広く市民と共有することが必要である。